

21世紀源内ものづくり塾

(実施期間：平成20～24年度)

実施機関：香川大学（代表者：一井 眞比古）

連携自治体：香川県

課題の概要

本事業では、高付加価値の微細構造デバイスの企画立案、製作能力を修得させるとともに、マネジメントもできるものづくりの担い手を目標に、次のような人材を育成する。

i) マイクロ・ナノ技術、微細構造デバイス技術などの先端技術を理解し、その実践力を身につけた高度技術者

ii) MOT（技術が持つ価値を最大限引き出すこと）的発想による製品コンセプトの企画、開発、検証サイクルが実践できるリーダー的人材

iii) 薬工、医工などの技術融合を通じて、学際領域での先端的ものづくりを担える人材

このため、座学等を通じて問題解決能力を養う。さらに、MOT手法やマーケティングといった経営的視点からリーダーに必要な素養も植えつける。

(1) 総合評価（所期の計画と同等の取組が行われている）

微細構造デバイスの高付加価値化に向けて、MOT的発想による技術企画・立案ができる中堅・中小企業の技術開発リーダー人材の養成を目指した事業として、養成拠点形成は所期の計画に沿って順調に推進しているものと評価できる。「売れるものづくり」を実現するために、情報発信と収集能力につながるコミュニケーション能力の向上についても、一層の強化を期待する。

<総合評価：A>

(2) 個別評価

①進捗状況

養成人数は社会人、大学院生とも所期の計画どおりに進んでいる。社会人修了者の活躍事例から、養成スキルにおいても所期の計画どおりの到達度に達していると評価できる。今後、中堅、中小企業からの養成人材の受け入れを更に増加させるための努力を期待する。

②人材養成手法の妥当性

応募者選考の手順と基準が整理されていることや到達レベルの設定・修了要件や審査要領を詳しく定めていることなど、人材養成手法はおおむね妥当と評価できる。MOTとMEMSの最先端研究が上手く結びついており、更なる進展を期待する。一方、提示された人材創出構想を実現するためには、医工、薬工の技術融合の取組みへの一層の強化も期待する。

③実施体制・自治体等との連携

本事業は地域の自治体、企業等と適切に連携して進められていると評価できる。運営委員として県及び四国も含めた多方面からの参画を得て、塾運営を管理・監督する体制を整えておりその成果を期待したい。なお、工学部、医学部などの関係専門家とも、より一層の連携が図られることを期待する。

④人材養成ユニットの有効性

社会人修了者の活動状況に評価できる事例が見られ、また、人材養成と研究開発に好循環の実例が出ていることなどから、本人材養成ユニットは有効であると評価できる。更に、その結果として地元企業に勤務する社会人修了者が今後地域の再生・発展に大きく寄与することが期待できる。しかしながら、大学院修了者については、地元定着率アップを通じて地域貢献・活性化へ寄与するための一層の努力を期待する。

⑤継続性・発展性の見通し

事業終了後は、社会人を対象に限定するなど運営のスリム化、授業のスリム化を行って継続する姿勢が示されていることは評価できる。また、修了生による「源内 OB 会」が発足するなどフォローアップ体制が整備されつつある点も評価できる。今後、各学部との協力関係を構築して機関を挙げての実施体制とし、継続性・発展性を担保することに期待する。

(3) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性 の見通し
A	a	a	a	a	a